

ご挨拶

日本学生 OL 連盟会長
河合 利幸

夏が終わり、少しひんやりとした風が熱くなった身体を心地よく冷やしてくれ、そんなオリエンテーリングには絶好の季節となりました。今シーズンもたくさん大会やイベントが、手帳のスケジュール欄を埋めてもらうべく待ちかまえています。そして、学生諸君にとっては最大のイベントの一つ、インカレショートが今年も無事開催されることとなりました。今回は栃木県矢板市と塩谷町にまたがるエリアがトレインとのこと。どのような熱い勝負が繰り広げられるのか、今から楽しみです。

とはいえ、どんな大会にしろ、開催までの道のりは平坦なものではありません。今回もきっと多くの人の汗の上に成り立っているものと推察します。選手の皆さんには、感謝しつつ精一杯、競技と大会を楽しんでもらいたいと思います。大会の成否の鍵は、最後は皆さん自身が握っているのです。

昨今の日本のオリエンテーリング界、特に学連を取り巻く状況には厳しいものがあります。どの大学でも、新入部員の獲得には苦勞しているようです。昔はクラブ活動あつての学生生活でした。今や何らかのクラブに加入している学生は少数派です(私の勤務先では 15%)。時代は変わったと言われればそれまでなのですが、多少のアイデアでは回復が難しいところまで来ているのかもしれない。原因について思うところはありますが、それはまた別の機会に書くことにします。ともあれ、参加者が減少すれば、インカレ、ひいては学連自体の存続にも響いてきます。インカレは学生諸君が自らの手で作り上げるべきもの。この素晴らしい大会を今後も続けていけるよう、皆の知恵と力を合わせていこうではありませんか。

最後になりましたが、仕事や育児、勉学の忙しい合間を縫って準備を進めていただいた実行委員会とその関係者の皆さん、本当にご苦勞様でした。そして地元関係者の皆さんには、様々な面でご協力いただき本当に有り難うございました。主催者の日本学連を代表して、厚く御礼申し上げます。

ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長
菊地 貴志

お待たせいたしました。今年もインカレショートの日がやってきました。第 11 回となる今年は一昨年インカレが行われたあの矢板のトレインを使用して行われます。私が 1 年生のときに体験した初めてのインカレの開催地、実行委員会のすばらしい努力によりさまざまなドラマが生まれた場所に思い入れがある人は少なくないでしょう。

時を経て今回は同じ場所でショートインカレが行われます。このショートディスタンスの大会においてはインカレと違い短い距離の中でどれだけミスせずスピーディに行うことができるか、つまり高速かつ正確なナビゲーション能力が問われます。今回行われる矢板は複雑に入り組んだ地形や多数分岐して存在する道・小径、そして入り乱れる植生などしっかりとした地図読みができないとつぼって現在地を見失いやすいトレインです。それだけにショートインカレが行われるにまさにふさわしい場所でもあります。それだけに選手の皆さんには思う存分走ってもらい、すばらしい結果を残してほしいと思います。

今年もショートインカレには様々な大学の OB さんを中心とした実行委員会が主体となって運営しています。特に今年は前日大会も実行委員会で行うなど、かなりやる気があるので、私たちもその努力に答えられるようにがんばりましょう。前日大会は今回 2 人リレー & トレイル O という複合大会で、1 日で 2 種類のオリエンが楽しめるようになっていきます。特にトレイル O は体力に関係なく地図読み等の能力だけで成績が決まりますから選手権の人だけに限らず、併設クラス参加の遅い人でも優勝できる可能性は十分あるので、ぜひともやっていただきたいと思います。そして 2 人リレーでパートナーとの団結力を築きながら、ショートインカレのトレーニングとして参加してください。

また、今年も地元の人との交流を深める上で、前日大会終了後は地元の人を対象としてオリエン体験イベントを行います。また宿泊場所は今回行われ

る矢板・塩谷地区に用意されています。オリエンテーリングを行うには、その土地の人の了解を得ています。でも良く考えてみれば別に使用料を払ったり、使用後に残った足跡をきちんとレッキして元に戻すといったことはほとんどまったく行われていないのが現状です。言ってみれば自分たちは他人の山に入って足場を荒らしたりしてただありがたうと言って去っていつているわけです。そういったことを自分たちがされてみて、気持ちいいものでしょうか。

そこで今回は使わせてもらったということの恩返しをしようと思っています。そのため無料のオリエン体験イベントを行って地元の人にオリエンをもっと知ってもらったり、地元の宿や温泉を使ったりと努力しています。地域の理解ができないとオリエンができなくなっている現在、地域の理解を得るためにも運営者だけでなく、参加する選手一人一人が地元の人に恩返しできればと思います。

最後になりましたが今回の大会を開催するに当たってご理解ご協力していただいた栃木県矢板市、塩谷町の皆様、そして大会の準備に対しご多忙の中準備運営していただいている実行委員会の方に、日本学生オリエンテーリング連盟一同を代表して厚く御礼申し上げます。学生の皆さん、この努力にお応えし、精一杯走りましょう。

ご挨拶

2003 年度インカレショート実行委員長
宮佐 俊佑

学生オリエンティアの皆さん、矢板ショートによるこそ！

3 種目(ショート、クラシック、リレー)あるインカレ競技の中で、一瞬のミスが命取りになるスリリングかつスピーディーな種目、それがこのショートディスタンス競技です。日々のトレーニングで培われた力を思う存分発揮し、是非栄冠の学生チャンピオンを目指してください。一方で、インカレは決して選ばれた人達だけの大会ではありません。学生日本一、A-final 進出、仲間の応援、ライバルとの勝負・・・それぞれ目的は異なるかもしれませんが、日本中の学生が一つのオリエンテーリング大会を通して、同じ時間・空間を共有することはかけがえない貴重な経験になると思います。また、初めてのインカレ参加となる新入生諸君にとっては、結果はどうであれ、インカレのもつ独特の雰囲気を感じ、感動し、思いっきり楽しんで貰いたいと思います。そしてこの経験を生かして、今後のクラブ活動、ひいては大学生活をより充実して頂ければと切に願っています。

さて、ご存知の方が大半だとは思いますが、今回の大会は秋に行う最後のインカレショートとなります。最後の舞台で選手の皆様に素晴らしいパフォーマンスを発揮して貰えるよう、実行委員会では今準備できる最高の舞台を用意しました。ショートディスタンスという競技性に相応しい矢板・塩谷地区での開催、しかも GPS 投入による非常に精度の高いマップの作成。はたまた演出面でも、より『魅せる』ことを意識した大会を目指しております。参加者の皆様にとって記憶に残るインカレショートになればと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしいテレビにて大会を開催できる運びとなりましたのは、ひとえに地元の方々のご理解とご支援のおかげです。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。